

平成29年度

会館だより 第5号

私の就活Ⅱ 海外体験記

岩手県学生会館

平成29年12月18日発行



自治会総会、避難訓練、会社等説明会開催



避難訓練の後、食堂で自治会総会。生内寮長の提案で新寮長には小山明里さんが選ばれました。会計報告も全員一致で承認されました。その後、おにぎり、缶詰が配布となりました。

振り返ると、面接や結果待ちでもハードな4、5か月でしたが、最後には成長できたと感じる事ができた就職活動でした。私は、3月まで東京に就職するか岩手に戻るか決められていませんでした。でも、説明会や選考が始まると自分のやりたいことや向いていること、どんな方と働きたいか真剣に考えさせられました。それに加えて強みや弱み、志望動機も考えなくてはいけないため、一人では不安になってしまうこともありま

就職活動を振り返って

徳田美玖

私の決めた道



恒例の会社等説明会には岩手銀行さん、県庁、岩手日報さん、保証協会さんが来館。外部からも5名の参加がありました。こんな立派な建物があるとは知らなかった、という声も。

した。自分で将来のことを考えて、自分の意思で全て行動することが優柔不断な私にとって難しいことだったため、諦めたくなくなる時もありました。(笑) そんな時に友人や家族が、ご飯を誘ってくれたり、電話をしたりして、支えてくれ、やる気を継続させることができました。

皆さんも不安だと思いますが、必ず成長できるいい期間になると思います！ため込まずに友人や家族と協力して頑張ってください！

打越 彩女

私は、岩手県教員採用試験を受験し最終合格をいただきました。受験した校種は養護教諭なので、春から小・中・高いずれかの保健室で勤務することとなります。今後はさらに尽力する必要があることを理解しつつも、まずは一段落しホッとした気持ちでいっぱいです。

さて、合格体験記ということを書きか悩んでおりますが、私が教員採用試験において大切にしてきたことを三点お伝えしたいと思います。現在教職を学んでいる方がおられましたら、ほんの少しの参考になれば幸いです。

①対策はできるだけ早い段階から始める

私が本格的に試験勉強を行なったのは二年次の秋からでした。思い返してみると余裕を持って準備してきたことが結果に繋がったのではないかと感じています。インターネットを見ていると、一ヶ月の対策で合格しましたという記事を見かけますがそれは信じがたいです。小論文や模擬授業、集団討論などが一次試験で課される地域もあります。とはいえ、最初は何から手をつけてよいか凄く悩みました。初期の段階でやっていて良かったといえるのは、受験する都道府県の過去問を解いて、傾向を知った上で勉強を進めたことです。特に教職教養は都道府県によって配点が高い分野とそうではない分野があるので過去問分析を大切にするのが効率的だと感じました。明確なボーダーラインは存在しませんが、どの都道府県でも大体七割以上をとれば一次試験は通過するといわれているので早めの対策がオススメです。因みにですが、予備校が実施する模試は難しく作られていることが多いようなので、一回の模試で思い通りにいかなくてもあまり落ち込む必要はないと思います。

②学習支援ボランティア等での経験を積む
最近、後輩から「小学校などでのボラン

ティアには参加するべきですか？」と質問を受けることがあります。これに関しては人によるかもしれませんが私個人としては参加していて良かったと思います。正直、試験の可否に関わるのかといわれたらそうではありませんが、実際の学校現場を知ることによつて大学の講義で得た知識をより深めることができました。教員採用試験の際も小論文や面接にも活用でき、説得力が増すかもしれません。そして何より児童生徒と接することで自分の目指す教師像が明確になってきます。私は週に一度ではありましたが子どもたちと授業や遊びを共にしてきたことで、自分だったらどんな養護教諭になりたいか、子どもたちのために何ができるかと考えるようになりました。また、みんなの笑顔を見るたびに勇気をもらい、勉強に対するモチベーションも維持できたと実感しています。

③適度な休養をしっかりとる
試験当日に向けた体調管理はもちろんですが、私は長期戦を乗り越えるためにやってきましたことがあります。それは意識して休憩時間を作ったことです。当然のことのように感じますが、勉強を進めていくほど絶対に合格しなければならぬという気持ちばかりが強くなり精神的に疲れてしまうこともあり

ました。私はそんな時「目指せ低空飛行」という言葉を頭に浮かべました。これは学校教員心理学の講義で、スクールカウンセラーの先生がいつも言っていたものです。“何事も意識を高くしておくことは大切だけど、ずっと高く飛び続けていたらいつかは墜落してしまう。それならば自分に合ったぐらいの低い位置でもいいから飛び続けていた方が良さんだよ”という意味なのだそうです。日常生活では睡眠時間を一定に設けたり、食事の時はできるだけ友人と会話を交わしたりし、休日は買い物や映画などで気分をリフレッシュさせていました。周囲でも自分を追い詰め過ぎてしまったせいで精神状態が悪くなり、体調を崩してしまったりという同級生も見てきたので、勇気を持って休憩することも必要です。

文章がダラダラと長くなってしまいました。以上が教員採用試験に向けて大切にしてきたことです。最後になりましたが、この長い期間励ましてくださった沢山の方々に深く感謝申し上げます。私は子どもが安心して過ごすことのできる学校を作るべく組織の一員として春から頑張りたいです。本当にありがとうございました！

私の就活

匿名希望

就活を終えてからもう随分な時間が経ってしまい、自分としてもあまり当時の記憶が無く、皆様にとつて役に立てることは見あたりません。それが単なるアホの所為か、はたまた辛すぎたが故の一種の防衛本能かは分かりませんが、疲れたという「実感」だけは今もはつきりと心に残っており、自分にとつて就活は所詮この程度だったねとしみじみと感じます。正直、何も書くことはありません。館長から「書いて」と言われた時、のんきに「ハイ」と言って∞秒で後悔したことを思い出しました。部屋は汚いし、時間守らないし、寮費も滞納している私がそれでも筆を執るとするのなら、就活に関しては希望のところに内定を頂けたということです。前述の通り就活のことは殆ど記憶にありませんが、微かに覚えているのは、常日頃からニコニコする事を心掛けたら面接がたくさん通るようになったことです。そう考えると、やっぱり笑顔が一番だと思います。それは面接の成功だけでなく、自分の気持ちの整理にも繋がります。どんなに悲しくても、無理してでも笑っていれば自然と心が前向きになれます。」就活で自分の人生が決まる「なんて大層な事言う人もいますが、たかが人生五十年。そんなものに責任もって、失敗して「私の人生ガー」と悲しむ必要ありません。未来の事ばかり考えて、今の自分を大切にしない人生に大した価値はありません。千年後にはどうせみんな死んでます。あなたの存在自体が消えます。だから頑張りすぎるのは考え物です。結局何が言いたいかというところ今の気持ちは将来なんかよりも、ずっと大切だということです。就活ってそんなものです、意外と。

私の大学生活

千葉 錬

私の大学生活は、一言でいえば充実した4年間でした。中学校からの夢である教師になりたい一心で、東京に来て、この学生会館にも非常にお世話になりました。大学では、日々学科の授業や、課題に追われながらも空き時間を見つけては、学校の付属図書館で教員採用試験の勉強を始めました。ボランティアも数多く経験し、子どもと常に関わっていました。そこで、教師の大変さを改めて感じ、「現職はこれより何倍もキツイんだ」と思い、果たして自分が教師としてやっていけるのかを深く考えた時期もありました。また、塾のバイトも沢山入っていたので、寮の集まりになかなか参加できないことが悔いでした。

もつと友達をつくりたかったというのが今の気持ちです。

教員になるという目標は大学4年間を通してぶれることもなく、無我夢中で勉強に励み、親や兄弟、大学で教師を目指す友人、館長等たくさんの方の支えによって粘り強く、勉強を続けられました。私一人では試験を受けるまで頑張れなかったと思っています。

結果は残念ながら落ちてしまいました。4年間このために頑張っていたということもあり、言葉にならないくらい悔しかったです。そしてなにより、今まで、仕送りや寮費や悩みの電話等で一生懸命支えてくれた母親に対して、申し訳ない気持ちがありました。いったい自分は何のために大学に行ったのだろうと思ひ詰めました。しかし、母親は「よく頑張った、これも経験だよ」と励まし、前向きな表情を見せてくれました。私も負けてられない、負けてはいけないと思い、常に前を向き、次は何をするか何ができるのかを考えるようになりました。この経験は、私の人生にとって非常に大きなものになったと思っています。私は「実際、今の段階で教師になるには早すぎたんだ、もつと経験をしてからでも遅くない」と切り替え、残っている卒論作成に励んでいます。来年度からはとい

うと、幸い、早い段階で塾の内定を事前にもらっていたので、今後は塾の方で全力で頑張る、親孝行をしたいです。そして教師という目標も諦めずに、いつか必ず教師になりたいと決意しています。この今までにないくらい充実し、沢山の経験をした東京での生活が活きるよう、新しい就職先で粘り強く頑張っていく覚悟です。

進路決定までの過程

岩崎 友優

今年9月に決まった来年度の進路は大学院進学でした。

当初、私は公務員を第一希望とし、昨年から就活と同時並行で準備を進めていました。しかし、結果は不合格。私はここで自分の勉強不足を痛感することになりました。その後、私には3つの道が残っていました。1つは公務員の受験を続ける事(第一希望は不合格でしたが、まだ他の種類の公務員試験は残っていたため)、2つ目は同時並行で進めていた就活に本腰を入れる事、そして3つ目が大学院受験をすること。この中で私が大学院受験を選択したのは理由があります。それは、大学院を経て公務員になった方に、大学院という場所は学問という面だ

けでなく自分自身を成長させるには格好の場所であり、進学してから就職したからといってプラスになることはあってもマイナスになることはないと思います。

この時、私の中の早く就職した方が社会で有利になるのではないかと考えたのはなく、さらに、大学院に進学をして自らを成長させてからもう一度公務員試験にチャレンジしようと思うようになりました。

その後の大学院受験に関して書くことさらに長くなってしまったため、ここでは割愛させていただきますが、結果として、友人の助けを借りながら他大学の大学院に合格し、そこに進学することが決まりました。

最後に、これらの公務員・就活・大学院受験という3つを経験して感じたことは、様々な方から話を聞くということは重要だということです。私の場合は公務員の方に話を聞いて大学院受験を決めました。就活一本に絞っている方(おそらくこれがスタンダードだと思います)は自分の希望している業種だけでなく全く異なる業種の方から話を聞くことも自分の進路決定に良い影響を与えることだと思います。

ぜひ、この学生寮という生活に関してサポート万全な場所で、自分の進路にいい意味で精

一杯悩んでください。

海外体験記

「ベトナム留学を通して」

小西 優汰

私は夏休みを用いて1か月間、この寮を離れベトナムヘイインターシップに出向いていた。参加した理由は極めて単純なものである。アジアの先進国であるベトナムの文化に興味があった、そして海外のオフィスワークを社会人になる前に経験してみたかった。主にこの二つである。先に感想を言うと、私は今回の経験から多くのものを得ることができたと考えている。このプログラムに参加する前の私は、自分の意見を他人に伝えることが、その根拠をわかりやすく述べることに長けていなかった。私に任された仕事は、ベトナムにあるFPT大学と提携している会社が開催するイベントの宣伝記事を書くことであった。故に、上司を説得し、何故自分が書いた記事の表現、内容が正しいのかを伝えなければならぬ機会が多々あった。働き始めて一週間も間もないころは、留学以前と同様、自分の考えに消極的になる傾向があった。相手の支持を鵜呑みにし、従うことが精

いっぱいであった。しかし、日を重ねることに英語のポキヤブラリーが増え、自分の意見を主張する回数も多くなってきた。これは、今回の留学で手にした一つの成果といえるかもしれない。

一方で仕事以外の私生活面でも、より濃い経験を味わうことができた。そのうちの一つが、ブルネイ人との共同生活である。今回の主催地はベトナムであるが、同じくインターシップを目的としてブルネイ人も同じ寮で生活することになっていた。ほとんどの生徒がイスラム教信者であり、初めて会ったときは緊張を隠すことができなかった。それでも、休日に一緒にスポーツをしたり、ウノゲームをしたりと初めのシリアスな空気はいつの間になくなっていった。国は遠く離れていたとしても、話しかければ自分を理解しようとしてくれる、想像しているほど外国人は怖くないと改めて感じさせられる一か月であった。今でも彼らとはたまに連絡を取っている。

今回私は、自分なりに悔いのない夏休みであったと私は思っている。読者も密度の濃い経験、新たな発見を求めて海外へ赴いてみてはどうだろうか？

もう留学なんてしない（かもしれない）

吉田 裕美

九月に二週間だけではありませんがニュージーランドへ語学留学に行ってきました。

一人で海外へ行くのは初めてでしたが、そのぶん日本人に甘えることなく、自分の語学力と向き合うことができました。

私が行ったオークランドには様々な国籍を持った人たちが住んでいます。ホストファミリーはフィジーからの移民でインド系の方々でした。食卓にはほぼ毎晩カレーが並びましたが、飽きることはなかったです。語学学校ではドイツ人やブラジル人の多いクラスで勉強しました。ドイツ語は英語とよく似ていますし、ブラジル人は習った英語をすぐに使っておしゃべりを始めるので彼らの英語力はとても高かったです。それと同時に自分の語学力の低さを思い知りました。私には二週間しか時間がなかったのどにかく喋ることを意識しました。おかげで少しは話すことに自信がつき、リスニング力も格段に上がりました。

さて、私がこのタイトルをつけた理由ですが、私は環境の変化に弱い体質らしく、中学生の時もカナダ研修で風邪をひき、今回も風邪をひいて帰国後に高熱に苦しみました。

本当は十月に大学の交換留学に応募して半年アメリカで勉強し、四年間で卒業したいと思っていました。長期留学はずっと自分の夢だったので、もう行かないと決めるのはとても難しかったです。しかしそのぶん、自分はどうして英語を学ぶのか、何を学びたいのかということを実際に考えることができました。私はこの留学で、外国で困難に直面することの怖さが痛いほどよくわかりました。そんな人たちを助ける、つまり日本に来る外国人の生活をサポートする仕事につけたらいいと思います。

林 大晏

皆さんは留学したことがありますか？

私は今年の夏休み、学部のプログラムでオーストラリアのブリスベンという都市に約三週間留学しました。Queensland University というところで専攻である経営学を英語で勉強したこと、有名な観光地で遊んだこと、ホストファミリーと異文化交流をしながら過ごしたこと、すべてが非日常的で、23日、毎日わくわくしていたのを覚えています。

現地のスクールでは、Queensland州のいくつかの有名企業を各グループがアサインし、先生やアドバイザーなどのフィードバック

クを基に、日本人にコミットするビジネスプランをプレゼンテーションするという意識高めめのワークをしていました(笑)。簡単に言えばマーケティングの勉強をしたのですが、まだ聞いたことがなかった単語などを英語で勉強するということが多くてつくづくのに精一杯でした。勉強に関して言えば非常に苦労しました。

毎週土曜日はだいたい遊んでいました。遊園地に行ったり、カフェでコーヒーを飲んだり、ダウンタウンで遊んだり、アウトトレットに行ったり、ビーチに行ったりしました。しかし私の周りでは道中のハプニングが多く、何度もひやひやさせられました。知らない場所を観光するときは事前の下調べが重要です。

なんといっても、留学といえばホストファミリーと過ごす時間です。高2で行ったカナダではステイ先に恵まれて、今回も期待していたのですが、仲良くなるまで時間がかかりました。ホストブラザーも最初はぎこちなかったですが一緒にサッカーやゲームをしたり映画を一緒に見たりする内に打ち解けることができて、最終日には「今までに受けた日本人の中でたいあんが一番だった」と言ってくれて帰りたいなくなりました。

もてなされる側も最低限の礼儀や、受け入れてくれたことの感謝をしつかり伝えることの大切さを再確認することができた良い機会でした。

沢山の意味で「学ぶことできた」オーストラリアでの三週間でした。

会館からの連絡

○冬季休業

会館の冬季休業は12月28日から1月6日までです。ただし、1月7日は日曜日、8日は祝日となりますので、食事の提供は9日からとなりますのでご注意ください。また、お風呂は後日入浴制限をお知らせいたします。

○帰省する前に室内の整理整頓を

良いお年をお迎えください

平成二九年十二月十八日発行

編集並びに発行元

公益財団法人岩手県学生援護会

岩手県学生会館

同 学生会自治会

住所 東京都豊島区要町二丁目5番5号

tel 03 (3972) 4783

fax 03 (6676) 4471